

長谷川輝紀先生のご退任にあたって

社会情報学部 学部長 魚住清彦

長谷川先生は1973年4月に専任講師として本学理工学部に着任され、1975年に助教授、そして1983年4月に教授とされました。青山スタンダードの前身である全学共通科目の体育担当の教員として活躍され、2003年4月の相模原キャンパス開学と同時にスタートした青山スタンダードでは「身体の技能」領域を担当されてこられました。社会情報学部発足にあたって理工学部に所属されていた長谷川先生にも移籍していただきました。学部専門教員の枠組ではありませんので、移籍していただくこと自体には困難はありませんでしたが、いろいろ手間がかかることになるにも関わらず快くお引き受けいただきました。新設の社会情報学部の社会情報学科に所属され、学科科目を担当していただく計画とし、後任の先生に社会情報学部の専門科目を一つ担当してもらうことができることとなりました。スポーツ推薦入試を取り入れていない理工学部から本学部に移られ、体育会の部活動に力を入れる学生も多い社会情報学部のカリキュラムの幅を広げることにもなりました。先生は長きにわたり数々の体育会運動部の部長を務められ、3月11日に開催された「2008年度体育会優秀団体・選手表彰式」において、長年の貢献にたいして、学長より特別表彰されました。アドグルにも力を入れておられ、いろいろな形で大学教育に大変なご尽力をされましたこと、改めて敬意を表します。

私の頭の中では「ちょっと困ったなあ」という感じの先生の表情と体育の先生とがつながりませんでした。先生はかつてトランポリンの名選手であり、指導者であり、日本トランポリン協会の理事長を歴任されています。先日、相模原キャンパスA棟の講師控室に伺い、何冊かのトランポリンに関するご著作を拝見しました。これが若き日の「スマート」な長谷川先生の実演写真だと言われて見せていただいた写真は小さすぎてスマートぶりがよくわかりませんでした。3月21日に開催される先生の最終講義「Two Seconds of Freedom」を聴講すれば事実が明らかになることでしょう。このほか、ボーリング、バドミントン、バレーボール、スキー、ゴルフとあたりまえであると言われるかもしれませんが、「スポーツ万能」であることに改めて感嘆する次第です。

理工学部時代には教授会では私の属していた物理学科からは遠い席にいらして、あまりお話を聞く機会もなかったのです。しかし、社会情報学部に移籍してこられてからは、私の関心はいかにして長谷川教授にゴルフを教えてもらうかでありました。ゴルフの練習は一回の練習で「500球を打った」といわれ、多くて200球、普通100球の練習ではうまくなるはずが無いと納得するのです。また、ゴルフの安全対策についてのご研究を数多く発表されており、この辺のお話も聞きたいことの一つです。何回か先生と一緒する機会が設定されたのですが、折り合わず未だにご指導を受ける機会を持っておりません。ゴルフは生涯スポーツとして最適であるとのことで、60才になってゴルフを始めた私としては、一度ご指導をしていただかないとつじつまがあわないなあというのが正直なところです。これからもますますお元気でご活躍されることを期待しておりますが、生涯スポーツのご指導もよろしくお願いいたします。